
戦闘機動隊学園 Uクラス

麒麟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦闘機動隊学園 Uクラス

【Nコード】

N 6 3 2 9 X

【作者名】

麒麟

【あらすじ】

7年前の全国同時多発テロの影響で全国で5つの戦闘機動隊学園が建てられた

基本的にはコメディー重視でやっていきたいと思いますがもしかしたらシリアスになる可能性がありますご了承ください

遅刻と鬼

朝起きたら時間は6時だったまだ寝れると考えた俺、雷上帝人らしいじょうみかど は二度寝に突入した

ただ今の時刻は9時半、今日から高校生だ入学式は8時から、その後には組み分けがある、クラスは全部で9クラス、組分けの内容は不明でその結果によってF、E、D、C、B、A、S、SSのどれかに入る9時半は組み分けが終わる時間だ、その時間に間に合えなかった者はunknown通称Uクラス、正体不明のクラスに入る「あゝあ、俺絶対うしろなあゝ」

ここはバスの中の1番後ろの席だもう30分程で瑞穂学園に着く瑞穂学園は日本に5つしかない戦闘機動隊学園（通称「戦機」）のことで6年前創設された学校である

そもそもこの学校が作られることになった理由は7年前全国同時多発テロが起こったからである、その時の数は3000個以上この時の負傷者、死傷者はあわせて1万人に上り、犯人は5000人以上いたしかしリーダーはつかまっていなかった

そうこうしている内に瑞穂学園に着いたバスからおりと改めてこの学園の大きさに驚いた、中等部の入学式の時も思ったことだ

「なゝにつつたてんだよ、帝人」

後ろから声が聞こえた、振り向くと

「なんだお前も遅刻か？」

と聞くと

「そーなんだよ、どーも朝に弱くてなあー」

「ていうことは、またお前と同じクラスか」

こいつは島茨大輔 しまいばらだいすけ 中等部でも同じクラスだ

った奴で、いわゆる悪友ってやつだ

「とりあえず職員室いこうぜ、ゝゝ。」

大輔が言った、かるく声が震えている

「ああ、ゝゝ、なにさせられんのかな？」

戦闘機動隊といえど学校、罰則はあるだろう

「うちの教師には鬼がいるからな、ゝゝ、入学式の片付けをやれ、なんて言われそうだなあー」

そんな予想をたてながら職員室に行った

職員室に着くと15、6人の生徒が正座させられていた、そのまえには鬼の角をはやした教師、鬼嶋 きじま がいた

「ほおー次は雷上と島茨かどうしたつつたってないでこっちにこいよ」

「帝人」

「大輔」

2人は同時に呼び合い

「逃げるぞ」

と言い全力で走った

「まったく、無駄なことをしておって」

2人を引きずりながら言った

職員室に着くと+5増えた合計22人の生徒が居た

「ん、もう少しだがまあいい、お前等！体育館に行って入学式の片付けをやってこい！」

「ゝゝゝ！！！！！！！！！！」

どうやら全員同じ予想をたてていたようだ

こうして入学初日が始まった

過去の地獄

「まさか、本当に入学式の片付けをやらされるとは」

ここは体育館、3000人は入れるドでかいホールだそれを20人ちよいの人数でやれと言うのむちゃだったそれを

『12時までには終わらせる！』

と鬼が言った、今の時刻は11時あと1時間しかない

「いつそのことばつくて逃げるか」

と大輔が言った

「そんなことしたらまた鬼に地獄をみせられるぞ」

と説明をすると

「うつ、そうだなあんなのは二度と御免だ、ゝゝ。」

「なにをされたの？」

話しかけてきたのは知らない奴だった、よく見たら女子だったしかも美少女の

「どちらさま？」

帝人が口を開く前に大輔が目を輝かして言った

「あつ私は東城優香　とうじょうゆうか　といいます今年アメリカから帰ってきました」

「初めまして優香さん俺の名前は雷上帝人、こっちのバカは島茨大輔だ」

こんどは大輔が言う前に帝人が話した

「だれがバカだ」

「お前以外にいるかド阿呆」

睨みあっていると優香がとめてくれた

「あの、やめてください2人とも喧嘩はよくないです」

「ほっとけばいいのよそのバカどもは、なに言っても止まらないんだから」

そう言ったのは中等部でも一緒だった助詞だった

「なんだ西条もUクラスだったのか」

「そうなのよ、もう最悪まさか寝過ぐすとは思ってもなかったわ、
そうだ東城さんだっけ私は西条三波　さいじょうみなみ　よろしく
ね」

「あつよろしくお願いします、、それでなにをやったんですか？」
そういうと大輔が説明を始めた

瑞穂学園中等部の朝9時、廊下では帝人と大輔が大爆走をしていた、
後ろに100匹程の犬をつれて

「なにやらかしてんだ大輔、家をぶっ壊しやがって」

家とは後ろの犬の家のことだ

「しょうがねえだろまちがえてあたっちまったんだから」

遅刻しそうになっていた2人が最短ルートとしてえらんだのが犬の
家がある敷地だった、この学園には訓練用の犬が100以上飼って
いた、しかも元野良がほとんどでとても凶暴

「またお前等か雷上に島茨2人共後でたっぷり指導してやるから覚
悟しておけ！」

前から鬼こと教師鬼嶋が現れた

「くそっ前には鬼、後ろには狂犬どっちを選んでも地獄だぞ」

「突撃しかない、大輔お前武器は？」

この学園では随時武器の携帯が許可されている

「ハンドガンが2丁とナイフが5本だ、帝人は？」

「マシンガンが1丁と手榴弾が3つだ」

「よし、じゃあ帝人が手榴弾を犬に1つ投げてその爆風に紛れて窓
から跳ぶぞ」

「わかった、3秒後だ3、2、1、それっ」

「ドカーーーーーン」

「行くぞ」

つぎの瞬間窓から跳んだ、そのとき首が突然引っ張られたいやな予
感がして振り向くと

「逃がさんぞ、貴様等」

「そのあとどうなったんですか？」

「鬼の特別指導と地獄の訓練をさせられて途中で意識がなくなった」
大輔は思い出したのか吐き気がして口を押えていた

とにかく絶対にあいつに捕まらないようにしようとしてここに全員
が思った

自己紹介

ここはUクラスの教室だ、なんとか時間ぎりぎりに片付けを終わらしたUクラスの生徒は教室に入ってぐったりしていた

「さすがに寝起きの作業はこたえるな」

そういいながら柔軟をする大輔

「担任の先生は誰ですかねえー？」

少しも疲れた声を出さない優香

「担任か、鬼じゃなきゃだれでもいいな」

「だから鬼嶋先生だと言っているだろう」

「！！！！！！！！！！」

「今日からUクラスの担任を持つことになった鬼嶋だ問題があった場合容赦なく指導してやるから肝に命じておけ」

（最悪だ、
よりによつて本当に鬼がくるとは）

そのまま、話がつづき鬼嶋が

「とりあえず、自己紹介してもらおうか端のやつから言っていけ、その際所属希望の部隊名も言っていくように」

部隊名とは制圧機動隊、医療機動隊、化学機動隊、戦略機動隊、隠密機動隊、特殊機動隊、異力機動隊の7つの部隊の事を言う制圧機動隊は主に接近戦、遠距離戦をとくにする部隊、医療機動隊は医療技術のスペシャリストの部隊、化学機動隊は薬や毒の研究をする部隊で医療機動隊とは犬猿の仲らしい、戦略機動隊は文字どおり戦略を立てる部隊だこれには高い知能が必要とされる、隠密機動隊は潜入などの隠密活動を得意とする、特殊機動隊はそれぞれの部隊の知識が十分にありなおかつ高い戦闘能力が追及される、異力機動隊はいわゆる超能力であるこれはうまれながらの才能でいまだ詳しいことは解明されていない

余談だが鬼嶋はこの異力機動隊以外の全ての部隊に所属経験があり

文字どうりの化物である

そんなこんなで大輔の番がきた、その次は帝人だ

「島茨大輔だ、所属希望は制圧と戦略だ、以上」

大輔は中等部の時戦略の成績はオールSだ、ちなみに希望部隊は何個でもいい

「雷上帝人です、希望部隊は制圧と隠密と異力です」

自慢じゃないが帝人には生まれながら妙な力がある

そのまま自己紹介が続いていき優香の番になった

「東城優香と言います、所属希望部隊は特殊です」

次は三波だ

「西条三波よ、希望部隊は特殊よ」

短い自己紹介が終わった

「これで全員か、あと4〜5人増えるかもしれないのでそのつもりで、では次は校則などだが基本的問題をおこさなければ関係ないあゝ、あと島茨と雷上はノートに書き取りをして提出をするように」

「「なんで俺等だけ書き取り!?!」」

「それはお前等がバカだからだ」

理不尽だだが鬼は殺気が籠っていそうな目で睨んできたのでしかたなく納得した

「あとは代表決めたがそれは後でいい」

「いや、代表は俺がやる」

突然大輔がいった、たしかにあいつは戦略の主席だった奴だから適任だな

「他に異論がなければそれでいい」

「では次は一か月ごとにある機動隊戦闘戦争、通称機動戦についてだ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6329x/>

戦闘機動隊学園 Uクラス

2011年10月19日01時04分発行